

めまいの感じ方は、人によって様々ですが主に2つのタイプに分けられます。

● 回転性めまい ●

周囲や自分自身がグルグルと回っているように感じ立ってられない。

急に起こり吐き気、嘔吐を伴うことが多い。

● 浮動性めまい ●

回転性以外のめまいの代表でフワフワと足元が浮いたり、ふらつくように感じる。

● 耳の病気で起こるほか、脳の病気で起こる ●

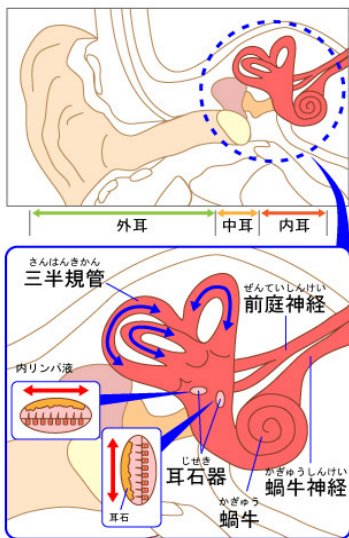
一般にめまいの7割弱は耳の病気で起こり1割程度は脳の病気で起こると言われています。ほかに心理的な要因や血圧の異常などが原因で起こることもあります。

ひとくちにめまいと言っても原因によって治療法が異なるので放置せず原因に合った治療を受けることが大切です。

◎ 耳の構造とめまい

耳は聴覚と同時に平衡感覚をつかさどる感覚器です。耳で体の回転や傾きなどを感知することで体のバランスを保っています。

耳の最も奥に位置する内耳には聴覚をつかさどる「蝸牛」と平衡感覚をつかさどる「三半規管」と「耳石器」があります。三半規管の中の内リンパ液の流れから、頭や体の回転などを感知し耳石器の中の耳石の動きから頭や体の傾きや移動感覚、地球の重力を感じます。三半規管や耳石器が感知した情報は前庭神経を通じて脳に送られます。



◎ 脳の病気でめまい

三半規管や耳石器が感知した情報は脳に伝わり処理されます。そのため「脳出血」「脳梗塞」「脳腫瘍」などが起こるとバランスを保つための情報処理がうまく行われなくなり、めまいが起こることがあります。

これらは命にかかわることもある重大な病気です。次のような症状が伴う場合は救急車を呼ぶなどして緊急に脳神経外科を受診することが大切です。

● 脳の病気が疑われる症状

- 激しい頭痛
- 手足がうまく動かせない
- ろれつが回らない
- 口の周りがしびれる
- 意識がなくなる



急に起立した時など目の前が真っ暗(真っ白)になりクラクラするものとして「立ちくらみ(起立性低血圧)」があります。立ちくらみは血圧が急激に低下し脳への血流量が減少することで起こります。広い意味ではめまいに含まれますが平衡感覚の異常ではありません。

同じ動作をするたびに

短時間のめまいが起きる

良性発作性頭位めまい症

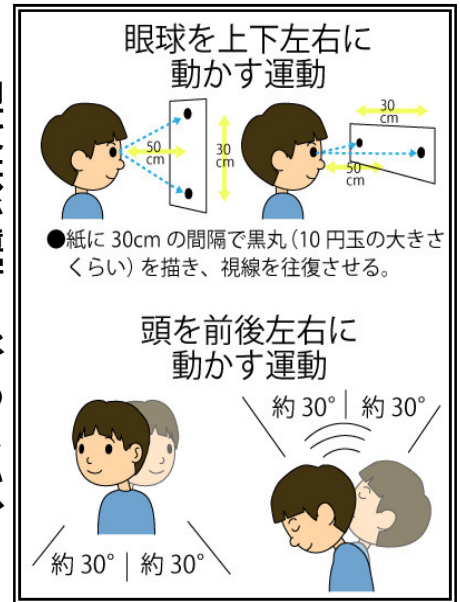
「寝返りを打った時」「寝床から起き上がった時」「前かがみになった時」「見上げるなど頭を反らせた時」など、頭を特定の方向に動かした時に、めまいが起こります。めまいは数十秒から1分間ほどで治まりますが同様の動作をした時に繰り返して起こります。吐き気や嘔吐を伴うことがあります。耳鳴りが起り吐き気が低下することはありません。

はがれ落ちた耳石などが三半規管にたまり頭を動かした時に内リンパ液の流れを乱し、めまいが起こります。

また病気の治療等で寝ていることが多く頭や体を動かすことが少ない場合に起こりやすいと言われています。

三半規管にたまった耳石などを耳石器に戻すため、めまいが落ち着いたらリハビリ(運

動)を行うと良いでしょう。



内耳全体が障害され、めまい、難聴、耳鳴りが起こる

メニエール病

激しい回転性めまいと難聴・耳鳴りが起こり吐き気を伴うこともあります。持続時間は数十分〜数日ほどで、めまい発作を繰り返すのが特徴です。めまいを繰り返すたびに難聴が悪化しやすいので早めに治療を受けましょう。

内耳の内リンパ液が増えて水ぶくれのような状態(内リンパ水腫)になり、めまいや難聴が起こります。内リンパ液が増える原因はわかっていま

せんがストレスや過労が関係していると言われています。

突然激しいめまいが起こりふらつきが残ることがある

前庭神経炎

突然1回だけ、激しい回転性のめまいが起こります。聴力の低下は起こりません。軽いめまいや浮動感が長期間続くことがあります。

前庭神経の炎症や血流障害によつてめまいが起こります。風邪の後に起こることが多くウイルス感染が関係していると考えられています。

突然片方の耳が聞こえなくなり多くの場合は耳鳴りも起こる

突発性難聴

難聴が主体の病気ですが病気の程度が強い場合には、めまいやふらつきも起こります。めまいは次第に治まってきませんが治療が遅れると聴力の回復が難しくなるため早めに治療を開始しましょう。